



嘉永三年庚申四月廿五日

飯沼の事

初子

乃能

口

入

夕月

柳乃

今

如瓶

糊

一

風

支地記
稚石



しんじつに 建徳

あまのついでに 心

こゝろをいしに 心

仲のついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心

あまのついでに 心